**タイトル（MS明朝12ポイント太字、中央揃え）**

**英文タイトル（Century 12ポイント太字、中央揃え）**

**総合 太郎（氏名：MS明朝10.5p、太字、右詰）**

**SOGO, Taro（氏名英語表記：Century 10.5p、太字、右詰）**

（２行空ける）

**1．本文の始まり**

見出しタイトルは太字（10.5p）。

本文開始（和文はMS明朝10.5p、英数字は半角文字Century 10.5 p）

段落開始時は空白１文字ではなく、インデントで１文字分下げる。

句読点は「、」「。」を使用

**1）サブタイトルも太字**

各節等のナンバリング含め、数字は全て半角数字（Century10.5 p）使用。

**2．本文中挿入図表、特殊文字など**

大見出しの前は１行空白行

**1）図表**

複雑な図表は本文中挿入とは別に、１枚ずつ別添えする。別添えの図の形式はjpgやpngなどであることが望ましい。（ただし、表は製版側フォーマットにての変更もありうる。掲載時の著者チェックにて確認する）

**2）特殊文字**

**査読後の最終原稿提出時の注意：**（査読時には特に明示する必要はない）

イタリック、本文内の太字指定、〇囲み数字、ふりがな、傍点、ギリシャ文字、ドイツ語、フランス語の文字、中国語の簡体字、特殊カッコなど（例：➀、さ、学際知、〔底層〕）は、黄色などのハイライトマークをつけてわかりやすく。

傍点は、横書き文章では「傍点」より「圏点」が望ましい。

ふりがなは本来の読みではないさなどは‘自然さ’（ナチュラルさ）と括弧で示す方が望ましいが、編集では著者の意向を重視する。

本文中での行替え時に、行間を１行空けたい場合は、行間に‘アケル’と明示する。

**3．注および参考文献**

**注：**（前に空白１行）

(1) 注はwordの脚注機能ではなく、文中では「フォント」の「上付き」機能(1) (2)で示し、文末に(1)、(2)として記す。

**参考文献**（前に空白１行、MS明朝：アイウエオ順、Century：A,B,C順、10.5p）

小林直樹 (2006)「総合人間学の課題と方法」『総合人間学の試み―新しい人間学に向けて』小林直樹編、学文社、pp.11-13

マクルーハン, H.M. (1986)『グーテンベルクの銀河系―活字人間の形成』森常治訳、みすず書房

McLuhan, H.M. (1962) *The Gutenberg Galaxy: the Making of Typographic Man*, Routledge & Kegan Paul

Shizukawa, Y. and Kono, K. (1992) “Concentration and Relaxation.” *Natural Science*, 34(3): 168-173

**同一著者の場合**：

総合太郎 (2006)『総合人間学の課題と方法』

----------- (2020)『総合人間学の現在』

［そうごう　たろう／総合人間大学／哲学］